

在外研究体験記



政策研究大学院大学 政策研究科
准教授 日比野 直彦

はじめに

公益財団法人 鹿島学術振興財団の「2014 年度 研究者交流援助」をいただき、マサチューセッツ工科大学 土木・環境工学科 (Massachusetts Institute of Technology (MIT), Department of Civil and Environmental Engineering) の客員教授 (Visiting Professor) として、2015年8月からボストンに滞在しています。こちらで生活を始めてまだ4ヶ月ではありますが、経験したこと、感じたことを基に、本稿を書かせていただきます。拙文が、今後、海外で在外研究をなさる方、特に「研究者交流援助」事業へ応募される方の参考になりましたら幸いです。

著名な教授、優秀なスタッフ、勉強熱心な学生

まず、受け入れ環境について書かせていただきます。交通行動分析の第一人者であり、交通政策、交通計画の分野で著名な Moshe E. Ben-Akiva 教授のところで、1年間、研究させていただくことになりました。Ben-Akiva 教授の Intelligent Transportation Systems (ITS) 研究室では、多くの研究プロジェクトを抱え、それを行う多くの博士研究員 (ポスドク) が雇用されています。著名な教授が、政府や企業から研究プロジェクト・研究費を獲得し、優秀なスタッフが分析し、成果を出すというという、アメリカらしい産官学の連携を行っています。高額な実験機器が必要なハード系とは異なり、いわゆるソフト系の研究室にもかかわらず、研究費が5億円もあるというのには驚きました。そして、特に力を入れているシンガポールとの共同研究に、私も参画させていただき、隔週で実施される WEB Meeting (ボストン、シンガポール、ヨーロッパ等からアクセスされる会議) に出席しています。ここでの議論は、学術面、実務面共にたいへん興味深く、刺激的なものであり、とても勉強になっています。

また、Ben-Akiva 教授が担当している科目（博士課程、修士課程の学生を対象とした専門科目）の一部をいただき、講義をさせていただきました。慣れない英語での講義でしたので、準備の時間もかかりましたし、学生からの質問に答えるのですらたいへんでしたが、とても良い経験になったと思っています。こちらの講義は、1 科目の講義回数が多く、課題も多いです。もちろん試験もあり、学生にとってはかなりハードな内容となっています。日本の学生よりも熱心に勉強していることは、昔から言われていることなので知っていましたが、それを目の当たりにすると日本の大学教育のあり方は考えさせられました。必ずしも良い点ばかりではないですが、参考にすべきことは多々ありました。



【MIT キャンパス風景】



【研究室のある第一号棟】

恵まれた研究・教育環境のボストン

ボストンには、MIT の他に、ハーバード大学、ボストン大学、タフツ大学、ノースイースタン大学等、たくさんの有名大学があります。多くの研究者、学生がいるというのもボストンの魅力の一つです。特に、MIT とハーバード大学は地下鉄で2 駅しか離れておらず、盛んに交流が行われています。私も、ハーバード大学ケネディースクールに毎週通い、連続セミナーに出席させていただきました。ITS 研究室のメンバーだけでなく、各国から集まる研究者や実務者と会い、彼らの意見を聞く機会があるというのは、たいへん良かったです。

また、日本人が多いこともボストンの特徴です。各分野の優秀な日本人研究者が、MIT やハーバード大学で研究しています。ボストン日本人研究者交流会やボストン開発コミュニティという集まりがあり、毎月、様々な内容の講演が行われています。自分の専門分野だけに留まることなく、他分野の最先端の話も聞けることも刺激になっています。

受け入れ先の研究室にこもって専門分野の勉強することも大切ですが、在外研究という良い機会ですから、多くの場に足運び、日本ではできない勉強をすることを、今後の方々にお勧めします。受け入れ先を選ぶ際には、研究室での研究以外のことも考慮されることは大切だと思います。ボストンは、家賃が高く、冬が寒いということはありませんが、とても魅力的なところですよ。候補の一つに入れてみてはいかがでしょうか？

英語の壁

こちらに来てからの最初の1・2ヶ月は、いろいろなことがたいへんでした。様々な契約をしたり、生活に必要なものを買ったり、あっという間に時間が過ぎてしまったという感じです。注文しておいた荷物が届かないといったトラブルもあり、なかなか思ったようにはいきませんでした。そこで感じたことの 하나가、英語力のなさでした。学会で発表をしたり、座長をしたりはできても、契約内容をその場ですぐに理解することや、トラブルの対応をすることはできないということを感じさせられました。また、聴講させていただいた講義でも、教授が話す英語は聞き取れても、各国から来ている学生たちの質問が聞き取れなかったことは多々ありました。WEB Meeting にいたっては、顔も見ることがない、声も聞いたことがない人とのインターネットを介した会議ですから、議論についていけなくなることもあり、はじめの数回は苦労しました。

渡米後数週間は、英語のできなさを、そしてその必要性を実感した期間でした。英語力を向上させるために、MIT の留学生を対象とした英会話の講義に、講師の先生にお願いをして、出席させてもらいました。ネイティブの講師から、L, V の発音ができない、イントネーションが良くない等の指摘を受けたり、単語を繋げたときの発声の強弱等を教わったり、これまでにあまり勉強できなかったことを集中してすることができました。世界各国から留学生が集まる大学には、このような英会話の講義が設けられていると思います。英語の勉強には、それらの講義や大学の Conversation Exchange のサービス等を利用されるのが良いと思います。

失敗を楽しむ気持ちが大切

紙面の都合上、多くは記述できませんが、その他、私生活などについても、少しだけ触れさせていただきます。昔と違い、インターネットの発達により、情報に困ることはほぼありません。また、物流の発達により、買い物も不自由なくできます。多少高いですが、日本食等もスーパーマーケットで買うことができます。困ったことと言えば、近年、インターナショナルのクレジットカードが使えないところが増えていることです。こちらのクレジットカードをすぐに作ることは簡単にはできませんので、予め準備をされるのが良いと思います。

話は変わりますが、日本にいるときとは全く違った生活をすることができます。ほぼ毎日のように会議があり、会食のある日本の生活とは異なり、自由な時間を多く持てます。読めずにいた本や論文を読んだり、後回しにしていた関連分野の勉強をしたりする良い機会だと思います。街を散策し、異文化に触れ、それらを通じて新たなアイデアを見つけるのも良いと思います。

最後に、こちらに来て失敗続きだったときに、勇気付けられた言葉を紹介して、本稿を締め括りたいと思います。「海外で生活を始めたのだから思い通りにいかないのがあたりまえ！交通事故等の大きな失敗でなければ、むしろ良い経験であり、将来の糧となるもの！失敗を楽しむくらいの気持ちになりなさい！」というものでした。失敗を恐れず、異文化を楽しみながら、多くのことを吸収し、日本に持ち帰りたいと思って、残りの時間を過ごしたいと今は考えています。

謝辞：本在外研究を実施するにあたり、政策研究大学院大学の皆様のご理解を、そして鹿島学術振興財団から多大なご支援をいただきました。ここに記して感謝の意を表します。

助成年度 2014 年度（派遣期間 2015 年 8 月～2016 年 8 月）

助成種類 研究者交流援助 長期派遣

研究課題 行動分析に基づいた社会基盤，交通，観光に関する政策の変遷とその効果に関する研究

派遣先 マサチューセッツ工科大学（アメリカ合衆国）